

イチゴ品種「べにたま」の長い果房に伴う問題点の解決策

1 はじめに

埼玉県では令和3年度に「べにたま」を育成しました。

「べにたま」は、糖度が高く酸度が低いため甘みを強く感じる良食味品種です。「かおりん」「あまりん」に比べ、早く収穫が開始できることや収穫量が多く、輸送性にも優れていることから、市場出荷用品種として期待されています。

一方、果房が長くなり、高畝土耕栽培で一般的な果房を外に配置する外成り栽培では、果実が通路上に出てしまい人が踏んでしまうことが問題点として挙げられます。

これを防ぐには、ハウス内気温を低く抑えるのが効果的ですが、春が近づき気温が上がるにつれて難しくなってきます。そこで、内成りにすることによって通路までの距離を稼ぎ、問題点を回避できないか検討しました（図1）。

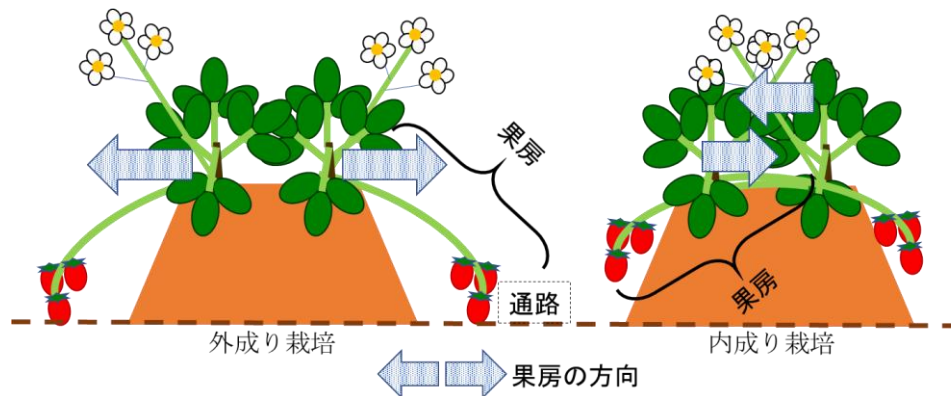


図1 外成り栽培と内成り栽培の模式図

2 生育・開花日・収穫量の比較

外成りと内成り栽培をしたときに生育や開花、収穫量に影響があるか調査しました。

外成り、内成り栽培ともに第6果房まで開花しました。それぞれの果房の第1花の開花日に差はありませんでした（表1）。

12月から翌4月までの調査では、葉柄長や葉の大きさ（小葉長、小葉幅）など生育（表2）や総収穫量（図2）、1果平均重量（表3）に差はありませんでした。

表1 開花日の比較

	第1花房	第2花房	第3花房	第4花房	第5花房	第6花房
外成り栽培	11月13日	12月15日	1月19日	2月22日	3月17日	4月9日
内成り栽培	11月14日	12月16日	1月22日	2月24日	3月19日	4月11日

各花房第1花の平均日を開花日とした（n=10）

表2 生育量の比較

調査項目	栽培名	12月	1月	2月	3月	4月
葉柄長 (cm)	外成り栽培	14.6 n.s.	14.3 n.s.	10.3 n.s.	10.7 n.s.	13.3 n.s.
	内成り栽培	15.2	14.7	11.1	11.5	14.4
小葉長 (cm)	外成り栽培	10.5 n.s.	8.4 n.s.	6.5 n.s.	7.1 n.s.	8.5 n.s.
	内成り栽培	10.4	8.4	6.5	7.4	8.2
小葉幅 (cm)	外成り栽培	9.0 n.s.	7.6 n.s.	5.7 n.s.	6.2 n.s.	7.7 n.s.
	内成り栽培	9.0	7.3	5.9	6.4	7.2

最新展開第3葉の葉柄、小葉を調査に用いた。

n.s.:栽培間に有意差なし (t-検定)

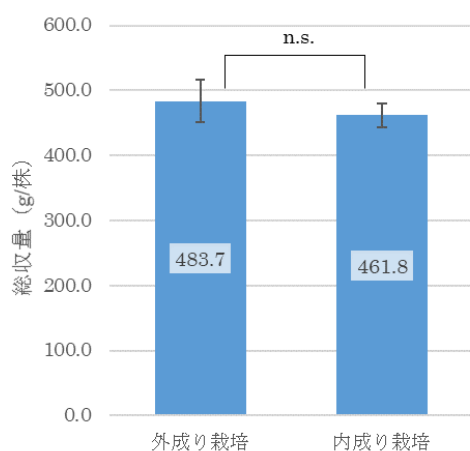


図2 総収穫量の比較

12月から翌4月末までの総収穫量
エラーバーは標準誤差を示す
n.s.:栽培間に有意差なし (t-検定)

表3 1果平均重量の比較

1果平均重量(g)	
外成り栽培	16.8 n.s.
内成り栽培	16.6

1果平均重量：収穫期間の総収穫量 (g) を収穫果数で除したもの

n.s.:栽培間に有意差無し (t-検定)

3 まとめ

内成り栽培では果実が通路上に出てしまうことはなく、果房が長い問題を回避することができました。また、すべての調査項目で外成り栽培と内成り栽培に差はなく、果房の方向による影響は認められませんでした。しかし、果房が短くなる時期 (1~2月) では、果実が株の間で成熟してしまい、灰色カビ病やうどんこ病などの病害が発生しやすくなりました。そのため、内成り栽培を実施する場合は、株間の通風が改善できる栽培資材の活用や栽培方式を通して病害対策を検討していく必要があります。

今後は、果実のロスが少ない外成り栽培が可能となるよう、果房を短くできる栽培技術についても検討する必要があると考えています。

【問合せ先】

農業技術研究センター 野菜育種担当

電話：048-536-0311 (代表) FAX：048-536-0315 (代表)